

IV. 社会的貢献活動（見学および体験学習）

1) 3月17日 近畿大学附属和歌山中学校（湯浅農場）

見学者 175名

生徒・教員併せて175名と大人数のため、男女2班に分かれて見学・体験学習を2時間という限られた時間の中で実施した。3月の見学ということもあり、マンゴーの果実がなく、生徒達が非常に残念がっていた。柑橘遺伝資源保存園では、色々な柑橘が実りの時期を迎えており、果実を見て、触れて、香りをかぎ、五感で感じている生徒達が見受けられた。



マンゴーハウスの見学



収穫体験



見学後の挨拶

2) 5月22日 初芝立命館中学校（湯浅農場および生石農場）

3年生32名，引率教員3名

5月22日は湯浅農場で、5月23日は生石農場で見学・体験学習を行った。湯浅農場ではマンゴーハウス，ミカン圃場，水稻の育苗状況および農業機械を見学した。マンゴーハウスでの説明は果実を実際に切って種子の有無を披露したことが好評であった。柑橘遺伝資源保存園の見学時には、顔の大きさほどある柑橘にとっても興奮している生徒の様子も見受けられた。

生石農場ではニンニク圃場の除草作業等を行った。慣れない作業で戸惑っている様子だったが、時間が経つにつれ楽しそうに作業を行っているように感じられた。



マンゴーの説明



サツマイモ栽培の実地講義



ニンニク栽培圃場の除草作業

3) 7月31日 奈良育英中学校（湯浅農場および生石農場）

1年生14名，引率教員3名

湯浅農場を見学した後、生石農場のログハウスで宿泊し、翌日に生石農場の見学というスケジュールで行った。湯浅農場では農場の概要を説明した後、ミカン圃場等の見学や農場で使用している農業機械を見学した。農業機械は普段から目にする機会が少ないため、とても興味を示し、特に男子生徒に人気であった。また、引率の先生方に記念写真を撮ってもらっている姿も印象的であった。配布した資料に説明したことをメモしている生徒が多く、学習意欲の高さを感じられた。

生石農場では、種芋（ジャガイモ）の定植や湯浅農場のウメを用いたウメシロップ作りの体験を行った。作製したウメシロップは各々持ち帰ることができるため、生徒は嬉しそうに作っていた。また、後日、生徒から「動植物に触れることができ、とてもよかった。」「ウメシロップ作りが楽しかった。」等の感想が寄せられた。今後、圃場の案内や植物の説明だけでなく、参加型の体験を増やすことによって、より価値のある学びを提供できるのではないかと考える。



農場概要の講義



農業機械の説明



柑橘遺伝資源保存園の見学



マンゴーハウスの見学



ジャガイモ定植



ウメシロップ作り

4) 11月8日 近畿大学附属新宮中学校（湯浅農場）

3年生 50名、引率教員 4名

附属農場の概要を説明し、その後、柑橘遺伝資源保存園とマンゴーハウスの見学を行った。柑橘遺伝資源保存園の見学では柑橘の香りを体験できることから好評であった。マンゴーハウスの見学では百貨店で近大マンゴーが販売されていること、さらには愛紅についての質問を多く頂いた。マンゴーの収穫時期が終了していたため、樹になるマンゴー果実を見たかったという声もあがった。



柑橘遺伝資源保存園の見学



マンゴーハウスの見学

2017年の見学および視察者数は第17表のとおりである。

第17表 見学および視察者

期日	団体名等	人数	視察内容
1月13日	(株)センチュリーホーム 農園部	1名	マンゴー栽培技術（湯浅農場）
2月3日	有田振興局 農業水産振興課	5名	柑橘遺伝資源保存園，マンゴーハウス 研修会開催の事前確認（湯浅農場）
3月9日	有田地方環境保全型農業研究会	28名	農場全体（湯浅農場）
3月13日	和歌山県4Hクラブ連絡協議会	16名	農場全体（湯浅農場）
3月17日	附属和歌山中学校	175名	農場全体（湯浅農場）
4月2日	新天地	10名	農場全体（湯浅農場）
4月7日	個人見学者	6名	マンゴーハウス（湯浅農場）
4月13日	個人見学者	5名	農場全体（湯浅農場）
4月18日	個人見学者	2名	マンゴーハウス（湯浅農場）
5月18日	附属中学校教員	4名	農場全体（湯浅農場）
5月22日	初芝立命館中学校	35名	湯浅農場・生石農場
7月31日	奈良育英中学校	17名	農場全体・生石農場
7月31日	田村薬品工業株式会社 薬草園	6名	農場全体（湯浅農場）
11月8日	附属新宮中学校	54名	農場全体（湯浅農場）
11月10日	和歌山県高等学校 定時制生徒会連絡協議会	40名	農場全体（湯浅農場）
11月24日	農学部	70名	農場全体（湯浅農場）
合計		474名	